

和歌山県立向陽高等学校・中学校 教科横断型授業 学習指導略案

教科横断型授業		「日本史探究」×「古典探究」							
日時		令和6年7月11日(木) 5時限							
対象		第2学年A組(普通科文系) 36名							
教室		2年A組HR教室							
授業担当者		森田泰充(地理歴史科)			寺西創(国語科)				
本時の内容		なぜ、藤原氏は権力を握ることができたのだろうか？—蜻蛉日記から考える—							
使用教科書		日本史探究 詳説日本史(山川出版社)			精選 古典探究(大修館書店)				
学習単元		第4章 貴族政治の展開 摂関政治			4日記 蜻蛉日記 藤原道綱母				
関連項目(該当するものに●印をつけること)									
KOYOの力		Kizuku	●	Okosu	●	Yomu	●	Qshieau	●
評価基準		知識・技能		藤原北家が権力を掌握していく過程を文字史料から読み取り、摂関政治を理解している。					
		思考・判断・表現		摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。					
		主体的に学習に取り組む態度		摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。					
段階	時間	学習活動					資料と指導上の留意事項		
導入	5分	1. 教科書・資料集などに示されている絵巻物などから、そこに描かれた庶民や貴族など様々な人々の様子を確認する。それらを踏まえて、「平安時代、政治を担っていた人々はどのような人々か」「その中にどのような人物がいたか」など、貴族政治について確認する。					<ul style="list-style-type: none"> 教科書・資料集に示されている『源氏物語絵巻』などの一部を活用する。 既習の藤原道長や貴族政治などに気付くようにする。 授業のテーマを提示する。 		
	5分	2. ワークシート① 3つの資料(ア)～(ウ)から考える 藤原実頼・頼忠が朝廷の人々から軽視された事情と、藤原公実の要求が白河上皇に聞き入れられなかった事情とを手がかりにしながら、(ア)(イ)のころの政治と(ウ)の頃の政治とでは、権力者はそれぞれ、どのような関係に頼って権力を維持していたかを考え、その相違を150字程度で説明してみよう。							
展開①	5分	3. 【活動1】 「藤原氏の政治権力」について、天皇との関係から摂関政治を考察する ① 当時の政治における藤原氏一族や道長の立場を考えてみよう。 ② 娘が天皇の妃となるために行ったことは？ ③ そのような中で活躍した人々は？ ④ なぜ、母方の祖父が天皇の後見人となったのか。まとめてみよう。					資料NO.1-1 「藤原道長の年表」、 資料NO.1-2 「陣定」を活用。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> *個人の考えを整理したあと、グループで話し合い、自分の考えと違う意見を発見させる。 </div>		
展開②	20分	4. 【活動2】 「平安時代中期の結婚のカタチ」から、摂関政治を考察する ① 平安中期の結婚のカタチを『蜻蛉日記』から読み解く。 <ul style="list-style-type: none"> 藤原道綱の母の人物像 兼家の人物像 和歌の解釈 藤原道綱母への助言を通して、当時の「結婚のカタチ」への理解を深める。 					資料NO.2-1 「蜻蛉日記」から 和歌3首を活用 資料NO.2-2 「藤原氏の家系図」を活用		

		<p>② 『蜻蛉日記』『町の小路の女』から、平安時代中期の恋 愛と結婚のカタチを探る</p> <p>○「ワークシートをもとに、平安時代の結婚のカタチを、男女それぞれの立場で読み解いてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけの情熱を持った、器量よし、才能よしの藤原道綱母は最終的に大切にされませんでした。 ・なぜ、藤原兼家は「藤原道綱の母」ではなく、「道長の母」を大切にし、彼女につらい思いをさせたのか。 ・『蜻蛉日記』はなぜ書かれたのか。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*個人の考えを整理したあと、グループで話し合い、自分の考えと違う意見を発見させる。</p> </div>
展開③	5分	<p>5.【活動3】「平安時代後期（院政期）の藤原氏」から、摂関政治を考察する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂関家は家政経済を整え、荘園を集積 ・天皇の外戚かに関係なく、天皇を補佐する摂政関白の地位を確立した。 ・摂関家は、藤原道長流（御堂流）が世襲。 ・その他の藤原氏は、清華家（三条・徳大寺・西園寺）として、摂関ではなく太政大臣に至る家柄として朝廷で重きなした。を 	<p>資料NO,3</p> <p>『日本史探究』教科書 第Ⅱ部 中世 第5章院政と武士の躍進 Ⅰ 院政のはじまり (本文記述から)</p>
まとめ	10分	<p>6.【活動4】ワークシートを記入し、授業内容を整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「招婿婚」の社会では、天皇の外戚になることが重視された。 ・結婚形態が「招婿婚」から「嫁入婚」に移行期となる。 ・中世的な「家」の成立。 ・天皇家の家長が権力を握る ・摂関家も「家」が重視され、天皇の外戚でも摂関家出身でなければ、摂政関白にはなれなかった。 	
備考		<p>◇「HIMAWARI」について K i z u k u (向上心 (探究心)・課題発見力), Y o m u (読解力 (情報収集量)), O s h i e a u (協働性・課題解決力)はEフェーズ (応用) に到達してほしい。 O k o s u (言語表現力【資料・発表]), Y o m u (先を読む力)はIフェーズ (基礎知識) 止まりになるのではと予想している。</p>	